

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立鬼塚中学校
1 前年度 評価結果の概要	・学力の向上については、新学習指導要領全面实施に向けて授業改善を進めることができた。今後は、基礎・基本の充実と活用力を伸ばす取り組み、指導と評価の一体化を目指した評価方法の工夫・改善を進めていきたい。 ・生徒指導の課題やいじめ問題への対応として、全職員が「チーム鬼塚」として組織的に対応することができた。今後は、未然に防止するための開発的な生徒指導や、集団づくり・仲間づくりの取り組みをさらに充実させていきたい。 ・不登校対策として、職員の連携・各種専門家との連携・外部機関との連携がうまくとれるような体制が整えられた。今後は、個々のケースに対する支援の向上や、各家庭との連携を深める取り組みを進めていきたい。
2 学校教育目標	『感動 感謝 思いやり』 ～ 支え合う生徒、支え合う先生、支え合う学校づくりを通して ～
3 本年度の重点目標	① 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善を進める。 ② 豊かな心を育み、人間関係づくりを充実させ、生徒間トラブルを減少させる。 ③ 不登校対策を充実させる。

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 生徒が主体的に学習に取り組めるよう 授業を展開し、めあてやまとめ、振り返り の充実を図る。	●生徒質問紙で、「授業に主体的に取り 組んでいる」に肯定的な回答の生徒の 割合80%以上。	・教職員間でマイプランを共有するととも に、「授業づくりのステップ1・2・3 Vol. 2」及び「唐津市アクションプラン」を基本 とした授業づくりを推進する	B	・マイプランの成果指標を達成したかどうかの結果が4件法で 平均値3.0となった。また、「めあて」「学び合い」「まとめ」「振り返り」などの流れを取り入れた授業を実践については、平均 値3.2であった。ただし、県の学習状況調査において、県平均 と比べ有意に低い数値となっている。	B	・昨年度に比べ、2年生が頑張ってきたのが評価で きる。授業が分からないままで終わっている生徒もいる ようだ。書く力、説明する力、活用力等を伸ばすよう、さ らに工夫を重ねていっていただきたい。	・学力向上対策コー ディネーター ・研究主任
	○朝の時間や授業の振り返りを生かし た家庭学習の充実を通して、基礎・基本 の定着を図る。	○生徒質問紙で「目標をもって家庭学習 に取り組んでいる」に肯定的な回答の生 徒の割合70%以上。	・朝のドリルや各教科での振り返りを工 夫するとともに、帰りの会で1日の学習 の振り返りや、家庭学習の計画をたてる シートを工夫する。	B	・生徒質問紙で、「目標をもって家庭学習に取 り組んでいる」に肯定的な回答の生徒が70% と増加していた。帰りの会での取り組みが来 年度の課題である。	B	・家庭学習については、いかに習慣化するかが大切で ある。また、テレビやインターネットだけではなく、本を 読むことも大切である。毎日、自分の机に座って勉強し たり、読書をする習慣をつけてほしい。	・学力向上対策コー ディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 観や正義感、感動する心など、豊かな心 を身に付ける教育活動	○学校評価の保護者および生徒アン ケート「心の教育項目」達成率をそれぞ れ80%以上	・人権・同和教育を根幹におき、道徳教 育や特別活動を充実させ、仲間づくりを 推進し、豊かな心を育む教育を推進する。	B	・思いやりや感謝の項目は、保護者が4件法 で平均値3.1、生徒が平均値3.5であった。特 に、2年生が昨年度の1年時より有意に上昇し ており、2年生の成長が顕著に見られた。	B	・学校評価アンケートで、2年生の向上が見ら れる点は評価できる。この項目は学校目標の 中核であるので、今後も継続して取り組んで ほしい。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当 者 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の 充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ の防止等のための取組、事案対処等) について組織的対応ができていると回 答した教員90%以上	・日常の生徒観察や教育相談アンケート (心のとびら)を年10回実施し、事象の 掘り起こしと生徒の心の変化の共通理 解に努める。	B	・職員の研修・理解も深まり、いじめの認知から、 組織的な取り組みはできている。ただし、いじめの認知 件数としては昨年度を上回っているため、今後の予防 的・開発的取り組みが必要である。	B	・件数としては増えているということだが、これは先生 方が早期発見・早期対応に取り組んでいる現れだと考 えられる。SNS上でのいじめなど学校外でのことなども 含め、今後の取り組みをお願いしたい。	(主)生徒指導主事 (副)各学年主任
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力 する気持ちを高める教育活動の推進	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力 する気持ちがあると答える生徒90%以 上。	・全ての教科等、学校行事等を通して、 夢や目標について自ら考えさせる時間 や場面を設ける。	C	・学校評価アンケート結果では、この項目だけ が他の項目と比べて有意に低い結果となっ た。学習意欲につながることも考えられ、今後 の重点課題である。	B	・新型コロナ感染症による影響も大きいのではないだろ うか。自分達の中学生時代を振り返ってみても、この 項目は生きる力として大切なことである半面、なかなか 実感しづらいものだと思う。設問として厳しいのかもしれ ない。	(主)教務主任 (副)各教科主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能 力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える 生徒80%以上	・毎日の給食時の放送で、食に関する 様々なトピックスを紹介する。	B	・学校評価アンケートでは、生徒・保護者とも に高い結果であった。特に必ず朝食を食べ てから登校するという回答はほぼ100%であ った。給食の残菜のことは課題が残るが、昨 年度よりも減ってきている。	B	・本校の朝食を食べている率が、かなり高 かったことは評価できる。残菜の課題につ いては、最近では好き・嫌いだけで安易に偏食し てしまう子どもも多いように感じる。家庭の協 力も必要であろう。	・給食指導担当 ・養護教諭 ・生徒指導主事
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・交通安全教室の実施や職員と育友会 や外部機関と連携しての登下校時の見 守り活動を行う。	B	・地域の協力もあり、校区全体が交通安全に対する意識が高 い。保護者アンケートでは、その活動に対する感謝の言葉が 多く寄せられた。ただ、生徒アンケートの中に「最近ヘルメッ トをしていない人が増えた」との記述もあったので、今後の継 続的な取り組みが必要である。	A	・交通安全に関しては、地域の者として、みな さんでよく協力して子供たちを見守ることが できていると感じている。今後も学校・保護者・ 地域が一体となって活動を続けていきたい。	・安全教育担当
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間 の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在 校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定	C	・10月～1月の月あたりの時間外の勤務時間 が45時間未満の職員は約40%にとどまり、業 務改善に取り組めていない。	B	・本項目に関しては、先生方の業務の質と量 を考えても、改善が難しいだろうと想像で きる。法的な目標ラインもあるので、さらに工夫 改善を進めていただきたい。	・管理職
	○事務システムポータル及び校務シ ステムの有効活用	○事務システムポータルを毎日3回 チェックする職員100%	・業務上の資料配布や事務的な連絡事 項をシステム上で行い、システムを活用 しなければならない必然的な環境を構 築する。	B	・学校評価職員アンケートにおいて、この項目だけが、 昨年度より有意に向上した。新型コロナウイルス関連 の情報共有を事務システムポータルで行ったこともあり、 毎日チェックする職員がほぼ100%になった。	B	・1人1台端末が配布され、学校現場のICT・ デジタル化が加速していると聞いている。うま く活用しながら業務の効率化を進めていただ きたい。	・管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○	○教育相談運営体制の充実と不登校生 徒への支援拡大	○昨年度より不登校生徒数を減少させ ることを目標とする。本項目は数値目標 はそぐわない面もあるので、不登校対策 委員会にて相互に質的評価を行う。	・SC、SSW、SSF等外部機関との連携を 強化する。 ・ケース会議を工夫し有効な支援策を探 る。	C	・不登校生徒数が昨年度より増加している。職員 アンケートにおいても、組織的な対応ができ ていないと感じている職員がいた。相談室の運営も含 め、新たな教育相談体制の確立が必要である。	B	・人間関係の構築が大切であり、家庭訪問などの取 組みがなされている点は評価できる。思春期の困難さ もあり、原因がわかりにくいなど、解決が難しい事例が 増えてきている。小中の連携も大切である。	・教育相談担当 ・養護教諭
○					・		・	
○					・		・	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・1人1台端末の導入により、ICTを利活用した授業改善が進み始めた。校内研修により、新学習指導要領に準じた評価方法の工夫・改善も行うことができた。来年度はさらに工夫・改善を進め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、学力向上に努める必要がある。 ・学校行事が制限される状況においても、特別活動や道徳科において心の教育に関する取り組みを行うことができた。生徒間暴力やいじめの件数は増加しているので、今後も継続的・組織的な取り組みが必要である。 ・不登校対策として、校内の連携、各種専門家・外部機関との連携をとりながら取り組むことができた。しかし、不登校生徒数は増加しており、原因が分かりづらいなど困難な事例が増えているため、教育相談体制を見直し、取り組みの改善が必要である。
--------------------	---